

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード		5-4-1			事業名	さっぽろ雪まつり魅力アップ事業	
担当		観光文化局観光コンベンション部観光企画課 札幌					211 - 2376
全体計画							
事業内容	第56回さっぽろ雪まつり(平成17年2月実施)をもって、第2会場である真駒内会場が最後の開催となったことにより、新たな会場構成や、雪まつりそのものの見直しが必要となった。そこで、市民フォーラムや市民ワークショップ、関係団体との懇談会など、さまざまな場での意見聴取、議論を行い、これらの意見・提案をもとに雪まつりの将来構想を策定した。今後の雪まつりのあり方として、より一層の市民参加の促進や、新たな魅力づくりなどさまざまな取り組みを実施していく。 (1)市民参加促進費 主に市民を対象とした、さまざまな形での新たな市民参加の仕組みづくりの構築及び組織づくりへの支援を実施する。 (2)おもてなし向上費 来場者に対するおもてなしとして、臨時駐車場の整備及び会場内整備として会場案内看板の統一、トイレ増設等を実施し、来場者へのおもてなしの向上図り、にぎわいを増す新たな魅力づくりを行う。					<年度別の事業内容>	
						市民参加団体への参加の場の提供及び参加数の増、自主事業への支援の拡大。おもてなし向上費として、来場者受入整備の継続実施。	
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)					平成20年度事業内容(決算)	
	第59回さっぽろ雪まつりさとらんど会場(第2会場)による魅力アップ事業を実施。来所者数は、さとらんど会場開設後、最高となる258,000人を記録。(第57回157,000人、第58回207,000人) 事業費の内容 渋滞対策に係る臨時駐車場整備費等の経費及び市民参加団体支援に係る経費 ○事業費 47,919千円					第57回さっぽろ雪まつりから3回に渡り、第2会場として実施してきたさとらんど会場であったが、交通アクセス状況の関係で来場者の大半が自家用車であったことから、当初の想定を大きく上回る来場者増に駐車場の確保などを対処していくことが困難となった。そのため、環境に配慮した地下鉄等の公共交通機関を利用でき、かつ来場者の受入として、広い室内空間を持った「つどーむ」に会場を変更した。 つどーむ会場においては、市民参加の場の提供を行ったり、来場者に対するおもてなしとして、シャトルバスによる最寄駅と会場間の来場者輸送や警備員による誘導などを行ったり、とにぎわいを増す新たな魅力作りを行った。結果、338,000人を記録。 事業費の内容 渋滞対策に係る臨時駐車場整備費等の経費及び市民参加団体支援に係る経費 ○事業費 80,521千円 内訳: つどーむ会場管理運営 37,937千円、環境ひろば運営 7,235千円、施設照明・暖房料 1,345千円、新聞広告掲載 1,286千円、関係者駐車場連絡バス 566千円、シャトルバス運行 934千円、広報物制作 1,331千円、仮設物設置撤去 6,720千円、警備 23,167千円、東区除雪委託 1,500千円	
	平成21年度事業内容(予算)					平成22年度事業内容(予算)	
	・平成20年度と同規模にて実施予定であるが、一般車両用駐車場を設置しない会場であることから、公共交通機関の利用を促し、渋滞対策に係る警備や会場周辺住民対策、事前広報を充実させる必要がある。 ・屋外と屋内施設を活用した参加・体験プログラムの充実を図っていく。 ○事業費 89,121千円						

平成 21 年度 第 2 次 新まちづくり計画事業進行調書（その 2）

計画体系コード	5-4-1		事業名	さっぽろ雪まつり魅力アップ事業		
達成目標の状況						
項 目	18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
参加団体数	9団体	10団体	13団体	14団体	15団体	15団体
雪まつりの満足度	57.7%	-	67.2%	68.0%	70.0%	70.0%
市民・企業等との協働の状況（市民・企業等の参加、支援、協力の状況）						
■ 市民との連携、市民参加 会場内において、市民参加による自主運営のコーナーを実施している。各参加者において、企画から運営までを実施し、来場者へのおもてなしを行っている。 ■ 企業等との連携・協働 [資金協力] 協賛スポンサーからの協力 [人材協力] 各市民団体による会場内事業への参加 [情報協力]（該当なし） [その他の協力]（該当なし） ■ 市民・企業等が参加しやすい環境づくり 市民企画案募集を実施し、広く市民参加の呼びかけを行っている。						
評 価（ 成 果 ）			課 題			
市民意見として、参加・体験型の会場が求められている中、雪まつりの新たな魅力作りの実践の場として、第2会場による事業実施を行っている 市民参加の場の提供、また、来場者へのおもてなしの向上により、来場者数も年々増加していることから、本市における集客交流の促進につながっている。			当事業により、さっぽろ雪まつりのさらなる魅力アップを図ることにより、第2会場の集客につながっている。 しかしながら、既存の参加団体などによる継続的参加がある一方、新規団体による市民団体の参加が乏しい状況にある。 雪まつりとしての新たな魅力づくりによる更なる集客交流の促進を行うため、募集の手法、会場の構成等さらに検討がある。			
今 後 の 事 業 の 予 定 ・ 方 向						
雪まつりの更なる魅力を高めていくことが必要であり、また、雪像制作や自主企画事業などの市民参加の場の拡大、そして、事業参加への支援を充実していくことが必要である。						

(全体)
19年度までは、雪まつり実行委員会が会場管理者として、さとらんど会場を実施していたが、20年度につどーむ会場へ移転した際に、昨今の経済状況の悪化等から協賛金の確保が困難なことなどから札幌市が会場管理者となり、市費にて運営を行っている。

[19年度]
渋滞対策に係る臨時駐車場整備等の経費が増大した。

[20年度]
会場移転に伴い、渋滞対策や迷惑駐車対策に係る警備等の経費が増大した。

[21年度]